

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年1月23日

予報期間：1月25日～2月24日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

北日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。

東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

北日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

# 全般1か月予報

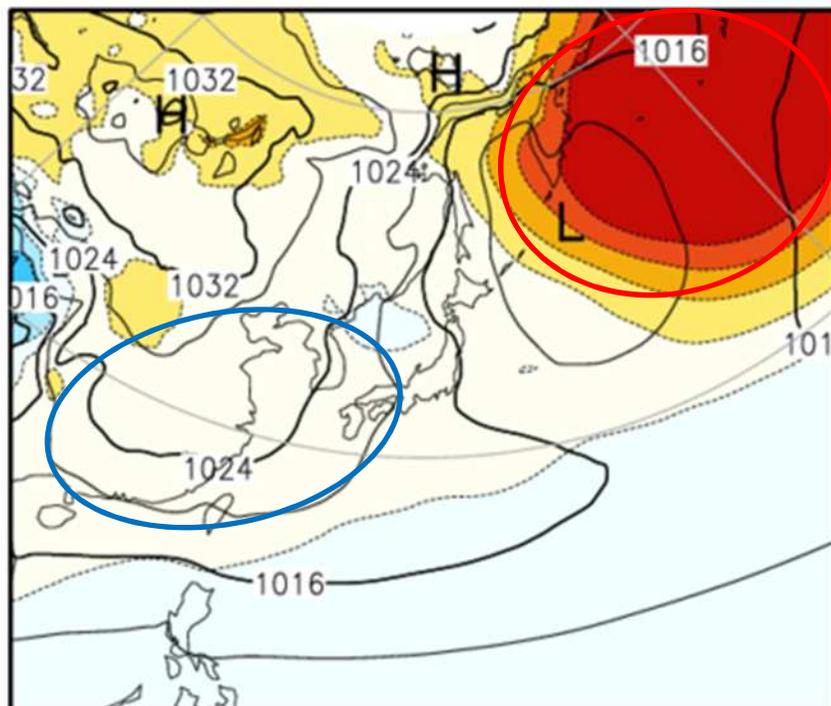
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:20:70	20:40:40	30:30:40	30:40:30
	太平洋側		20:30:50	40:40:20	
東日本	日本海側	20:30:50	40:30:30	30:30:40	50:30:20
	太平洋側		30:30:40	30:40:30	
西日本	日本海側	40:30:30	30:40:30	30:30:40	30:40:30
	太平洋側		30:30:40	30:30:40	
沖縄・奄美		40:40:20	40:40:20	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:30:60	20:30:50
東日本	10:20:70	20:30:50	20:40:40
西日本	20:50:30	40:40:20	30:40:30
沖縄・奄美	50:40:10	50:40:10	40:30:30

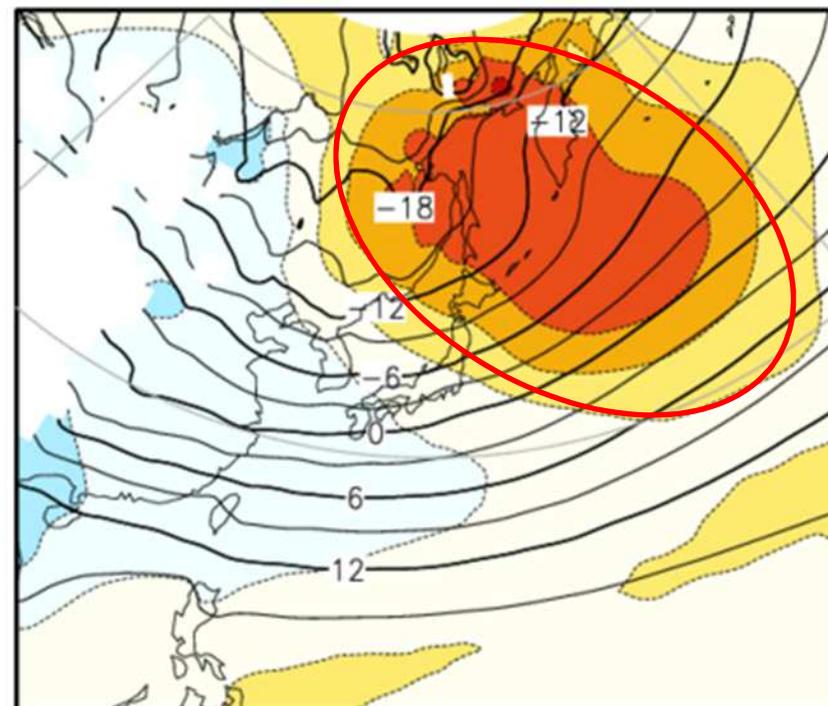
## 全般予報のポイント

- ・北・東日本では、寒気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、北日本では期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・沖縄・奄美では、寒気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の気温は平年並か低いでしょう。
- ・低気圧の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、北日本日本海側では平年並か多く、北日本太平洋側では多いでしょう。向こう1か月の日照時間は、北日本太平洋側では平年並か少ないでしょう。
- ・冬型の気圧配置が長続きしないため、向こう1か月の降雪量は、東日本日本海側では少ないでしょう。
- ・沖縄・奄美では、低気圧や気圧の谷の影響を受けにくいいため、向こう1か月の降水量は平年並か少ないでしょう。

## 海面気圧(1か月)



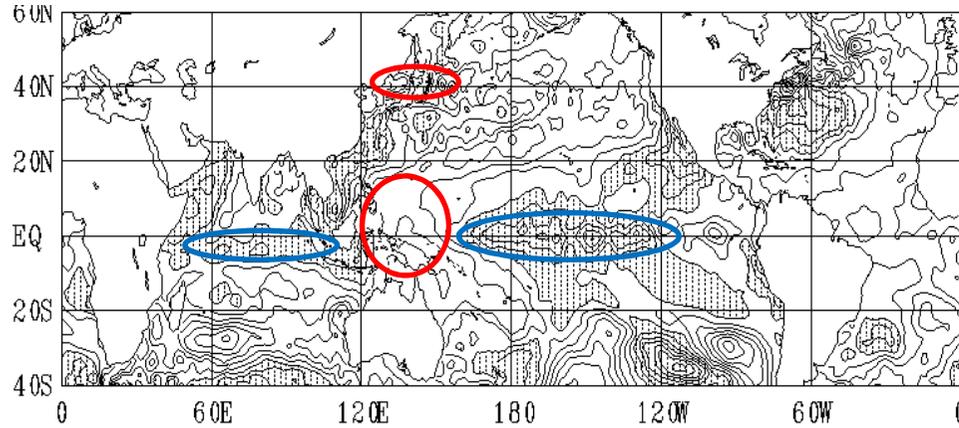
## 上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、アリューシャン低気圧が弱く、日本付近では冬型の気圧配置が長続きしないでしょう。しかし、千島近海には低気圧があり、北日本は低気圧の影響を受けやすいでしょう。一方、シベリア高気圧は強く、華南付近まで張り出すため、沖縄・奄美では低気圧や気圧の谷の影響を受けにくいでしょう。

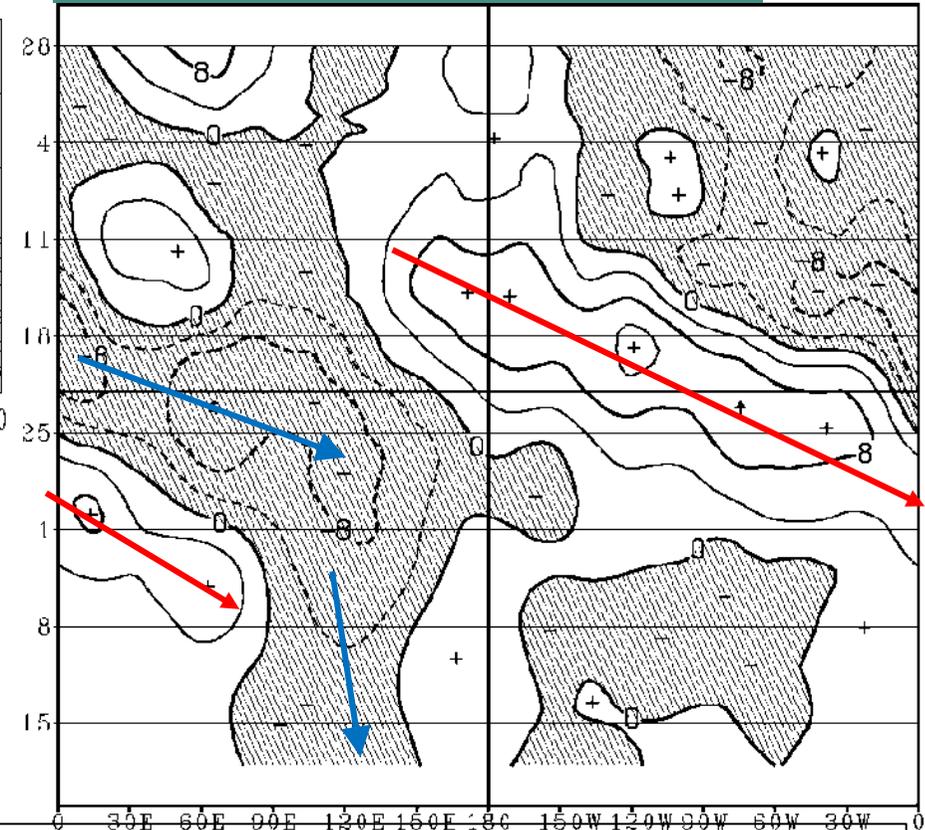
上空約1500mの気温(右図)は、北・東日本付近は北日本を中心に平年より高い領域に覆われるため、寒気の影響が弱いでしょう。西日本と沖縄・奄美付近では平年からの隔たりが小さいですが、寒気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

## SST偏差



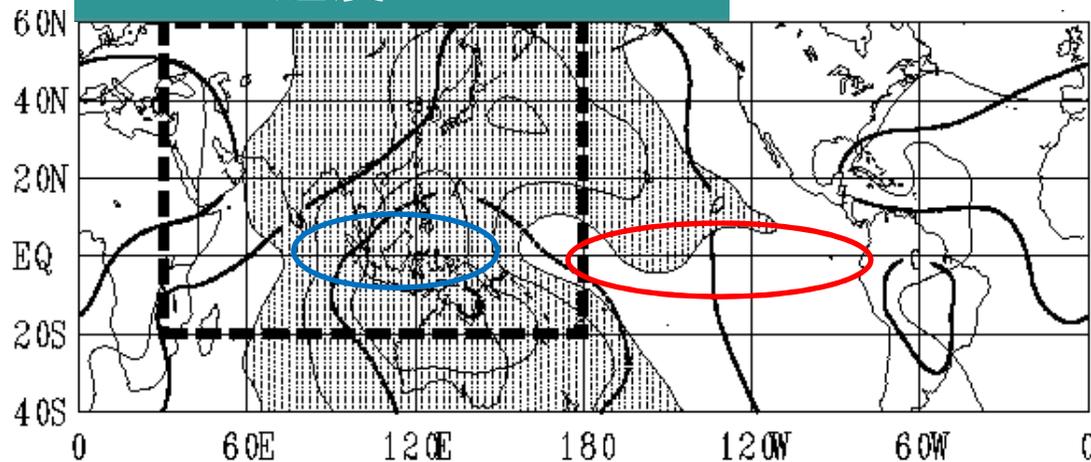
熱帯域では、インド洋で負偏差。インドネシア付近から太平洋西部にかけて正偏差。太平洋赤道域中部で負偏差。ラニーニャ現象的なSST偏差分布。日本海北部から日本の東にかけて正偏差。

## 200hPa速度ポテンシャル偏差



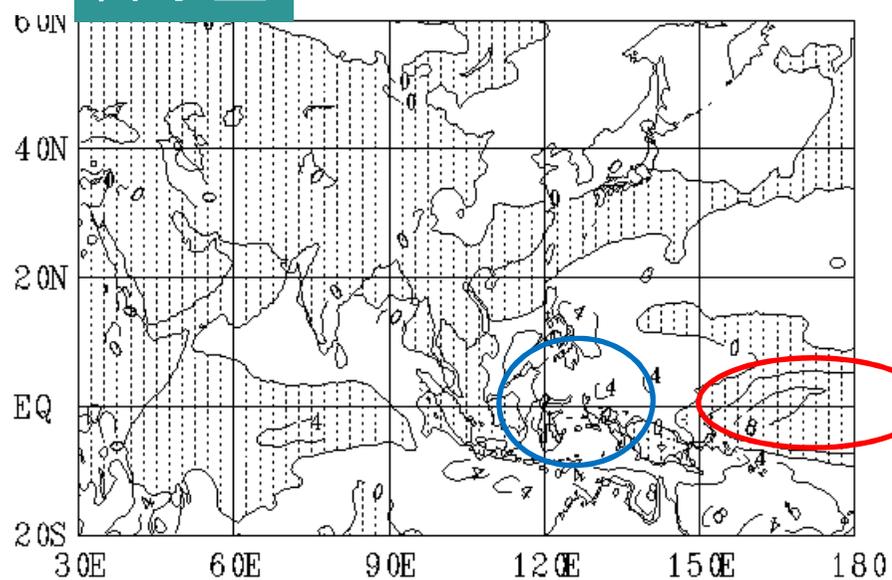
振幅の大きな赤道季節内振動(MJO)に伴い、対流活動活発域が期間前半にアフリカからインドネシア付近に東進、期間後半はインドネシア付近で活発な状態が持続。この持続にはラニーニャ現象的なSST偏差が寄与。

## 200hPa速度ポテンシャル



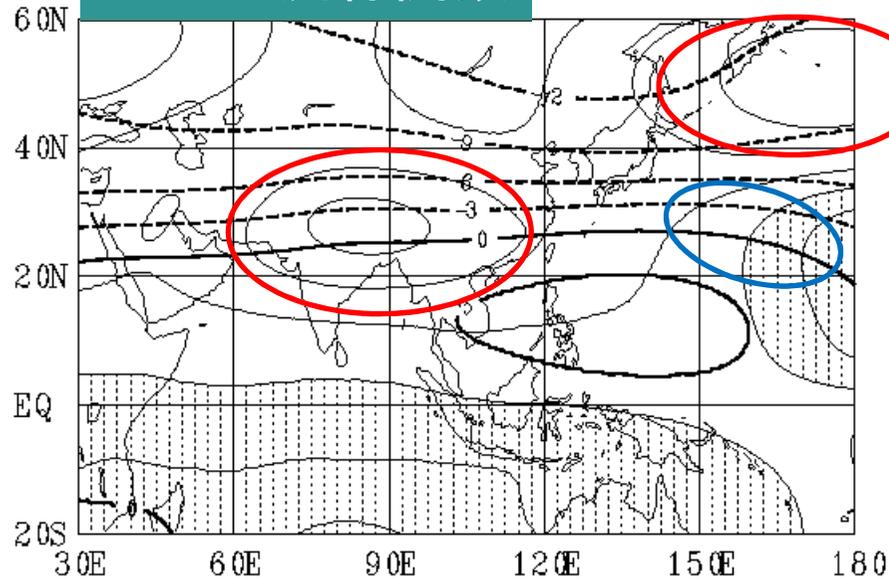
熱帯の対流活動に対応して、インドネシア付近で上層発散偏差の一方、太平洋赤道域の中部から東部にかけて上層収束偏差。

## 降水量



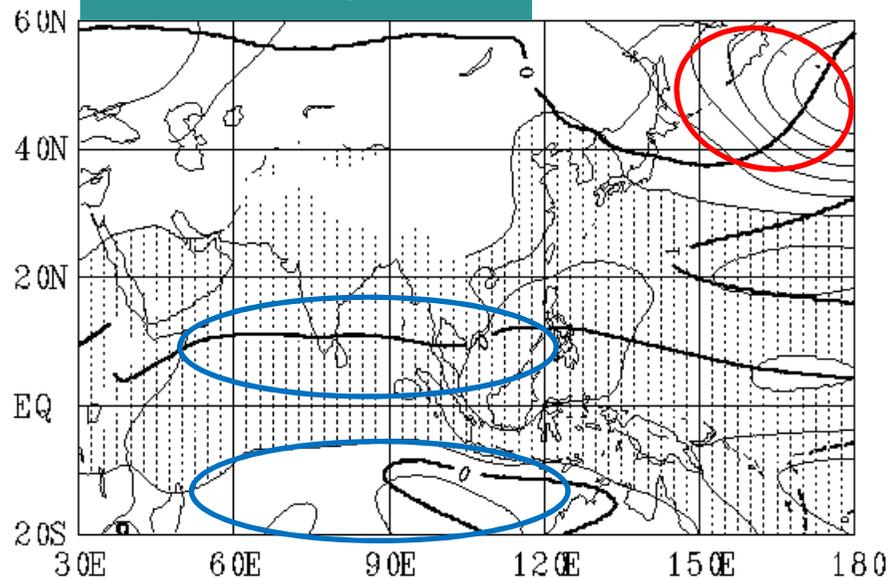
インドネシア付近で多雨偏差の一方、日付変更線付近で少雨偏差。

## 200hPa流線関数



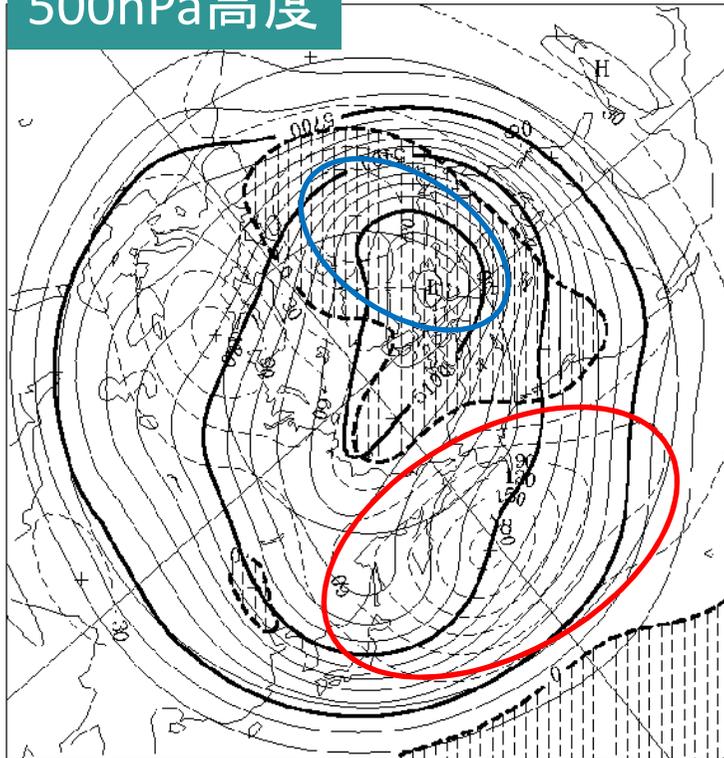
パキスタンから華南付近にかけて高気圧性循環偏差、日本の南東で低気圧性循環偏差。これらは、熱帯対流活動に強制されたと推察。一方、千島の東を中心に高気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数

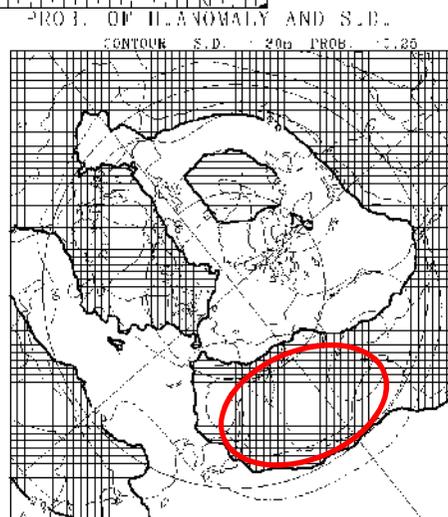
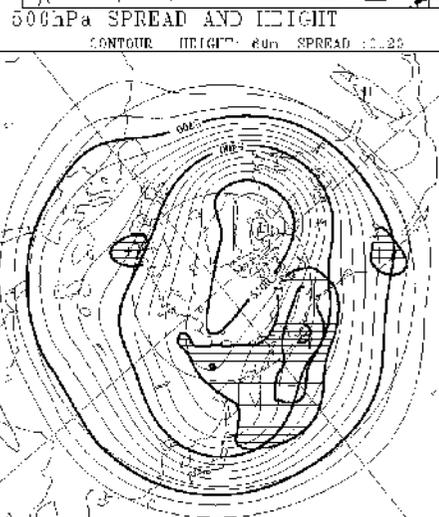


熱帯の対流活発の影響で、インド洋からインドネシア付近にかけて赤道対の低気圧性循環偏差。千島の東を中心に高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

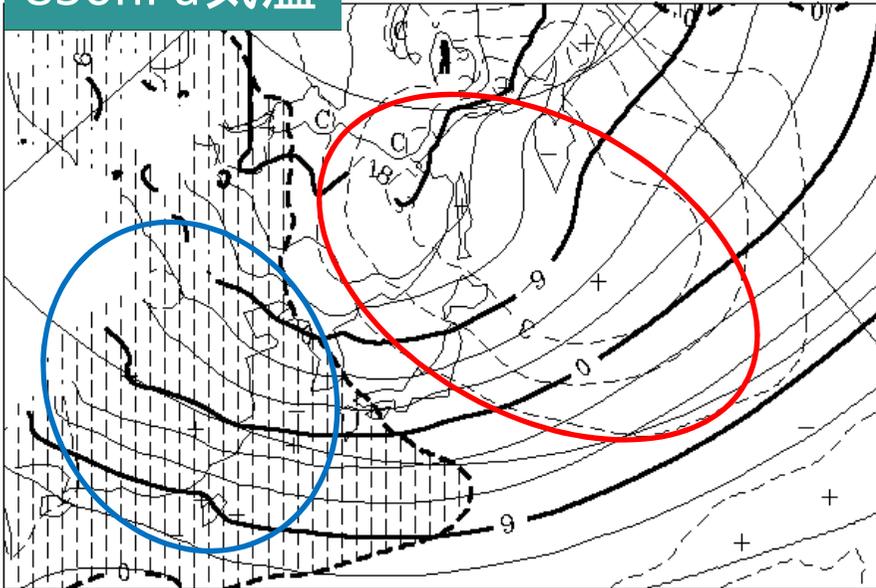
## 500hPa高度



極渦がカナダの北東で強い。極東のトラフが浅く、アリューシヤンの南を中心に強い正偏差で、日本付近に寒気が流れ込みにくい場となる。日本付近は北日本を中心とする正偏差で、北日本には正の高偏差確率50%以上の領域がかかる。

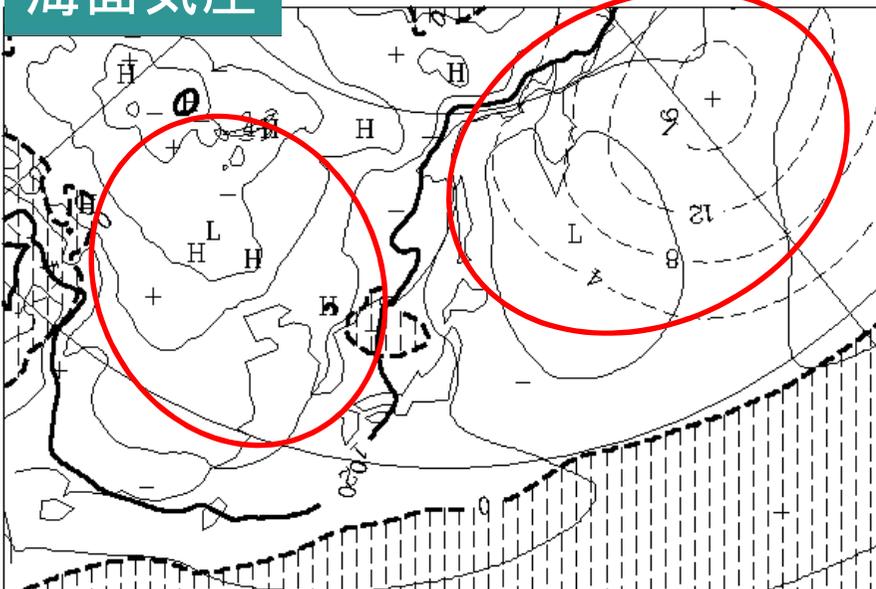


## 850hPa気温



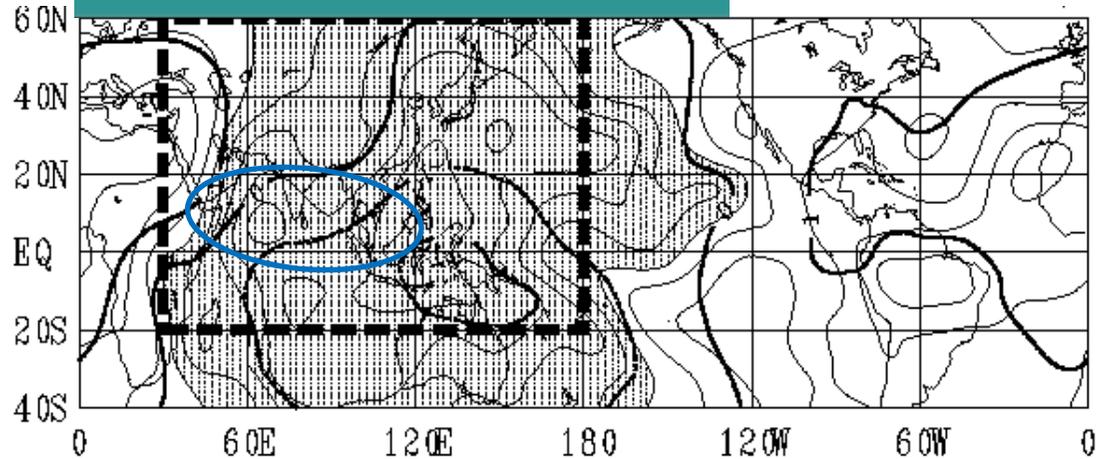
北・東日本付近は、サハリン付近を中心とする正偏差域に覆われるため、寒気の影響が弱い。一方、大陸から伸びる負偏差域が沖縄・奄美付近を覆い、西日本には一部かかり、寒気の影響を受けやすい時期がある。

## 海面気圧



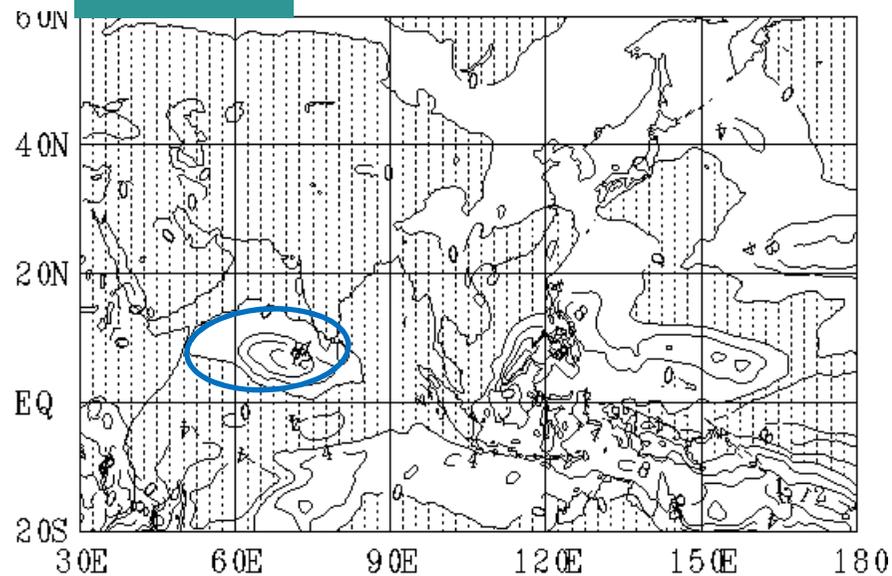
アリューシャン低気圧が弱く、日本付近では冬型の気圧配置が長続きしない。しかし、千島近海には低気圧があり、北日本は低気圧の影響を受けやすい。一方、シベリア高気圧は強く、華南付近まで張り出すため、沖縄・奄美では低気圧や気圧の谷の影響を受けにくい。

## 200hPa速度ポテンシャル



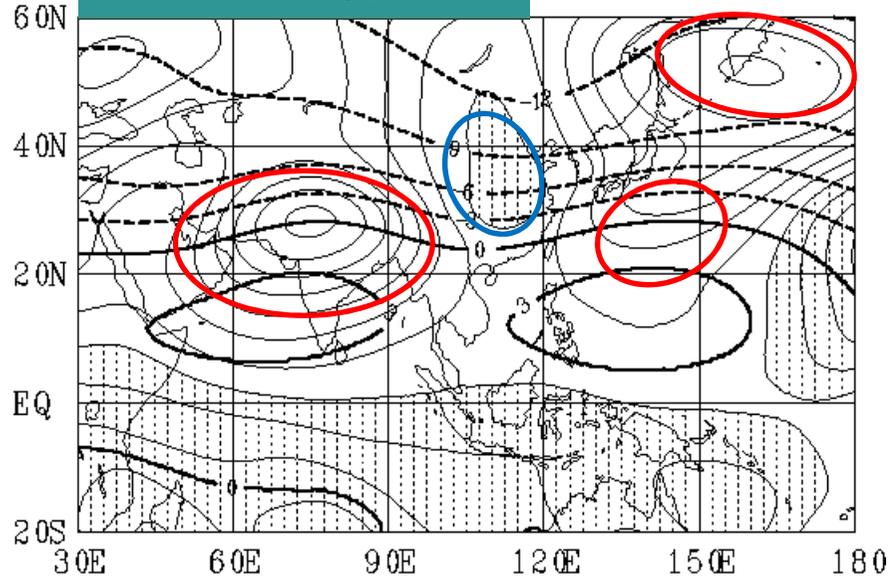
インド洋熱帯域で上層発散偏差。

## 降水量



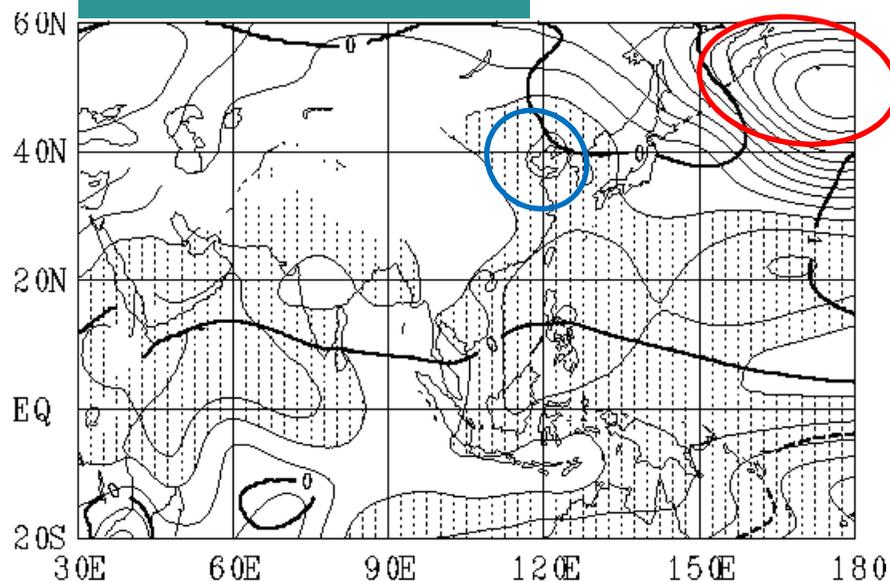
インド洋中部の熱帯域で多雨偏差。

## 200hPa流線関数



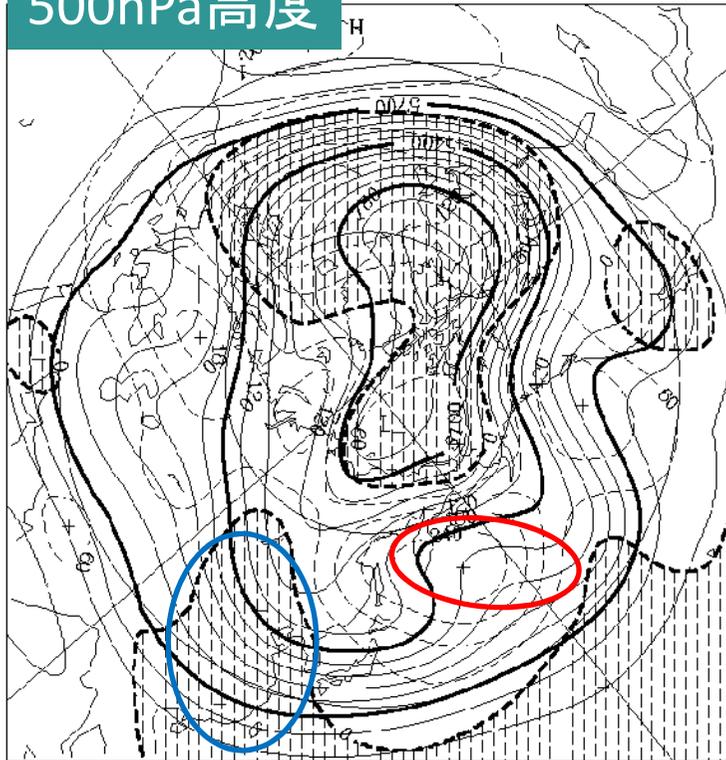
亜熱帯ジェット気流沿いの波列が明瞭で、その一環として華中付近で低気圧性循環偏差、東日本付近から日本の南東で高気圧性循環偏差。また、カムチャツカ半島付近には高気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



上層の波列に対応して、華中付近で低気圧性循環偏差、また、カムチャツカ半島付近には高気圧性循環偏差。

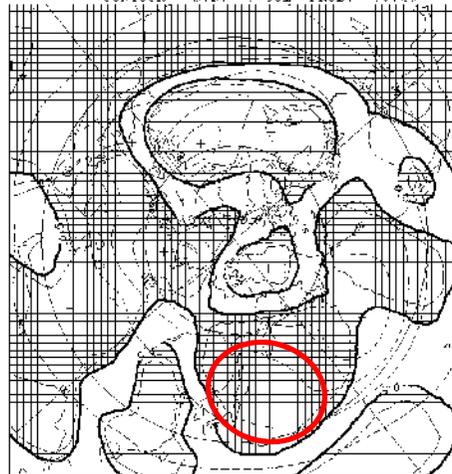
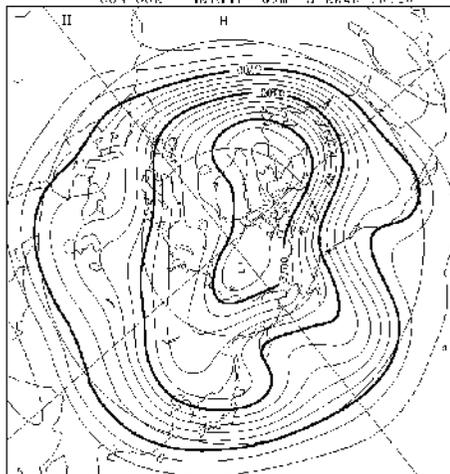
## 500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT  
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

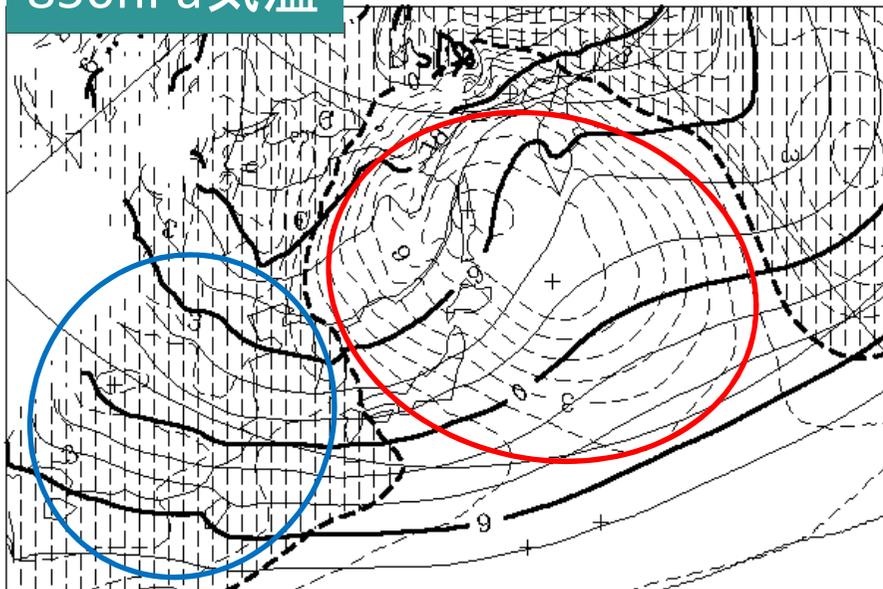
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.E. 30% PROB. 0.25



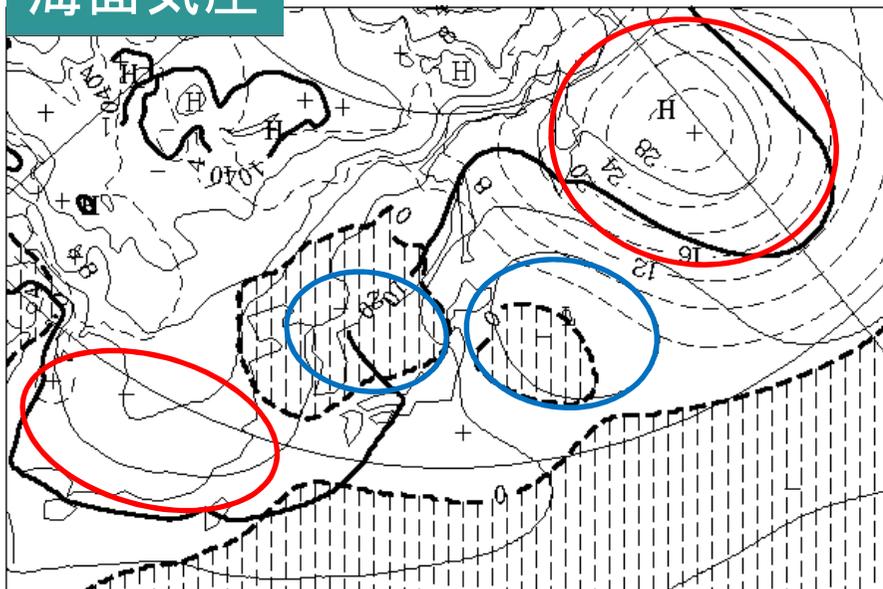
華北から日本付近は負偏差、カムチャツカ半島付近に強いリッジがあって、日本付近では偏西風が分流している。西谷傾向で低気圧の影響を受けやすい。北・東日本には正の高偏差確率50%以上の領域がかかる。

## 850hPa気温



北・東日本は、千島付近を中心とする強い正偏差域に覆われる。一方、沖縄・奄美は大陸からの負偏差域に覆われる。

## 海面気圧



アリューシャン低気圧がない。日本海付近が負偏差で、日本の東には低気圧がある。このため、北・東・西日本は低気圧の影響を受けやすい。一方、シベリア高気圧は強く、華南まで張り出す。

## 想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、低気圧の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

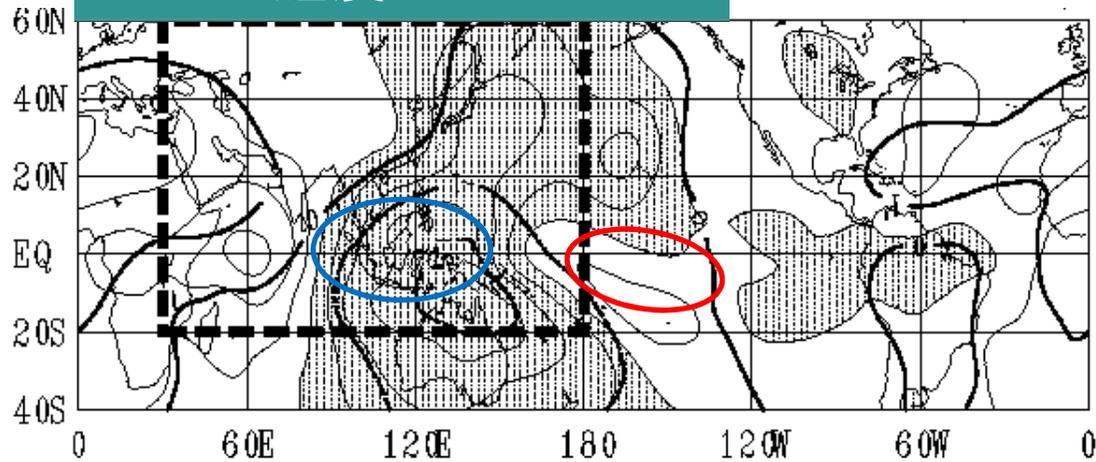
### <気温>

・北・東日本は寒気の影響が弱いため高温で、北日本ではかなりの高温となる見込み。  
一方、沖縄・奄美では寒気の影響を受けやすく低温。西日本では平年並。

### <天候>

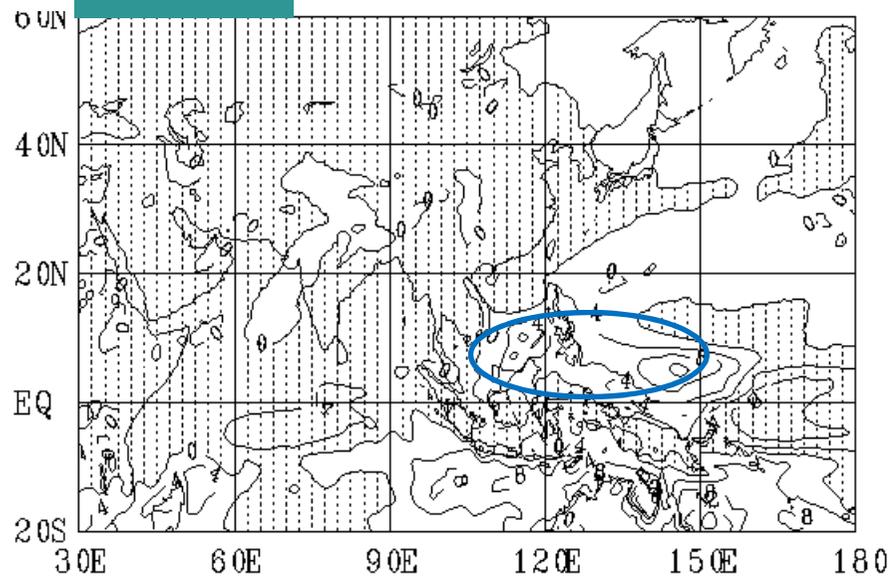
・北・東・西日本太平洋側では、低気圧の影響を受けやすいため、平年より晴れの日が少ない。一方、北・東・西日本日本海側では、冬型の気圧配置が続かないが、低気圧の影響を受けるため、天候は平年と同様。

## 200hPa速度ポテンシャル



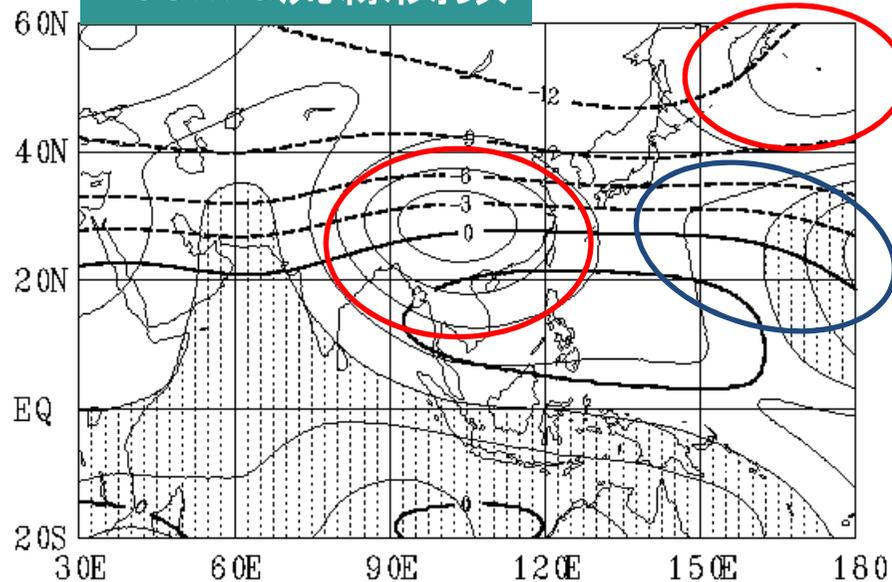
熱帯域では、インドネシア付近で上層発散偏差、太平洋中部で上層収束偏差。

## 降水量



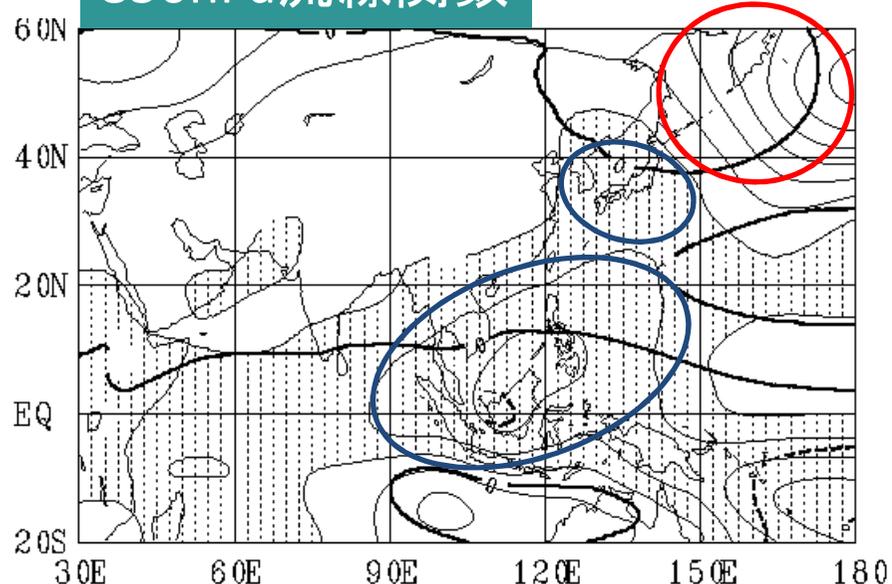
インドネシア付近から西部熱帯太平洋にかけて多雨偏差。

## 200hPa流線関数



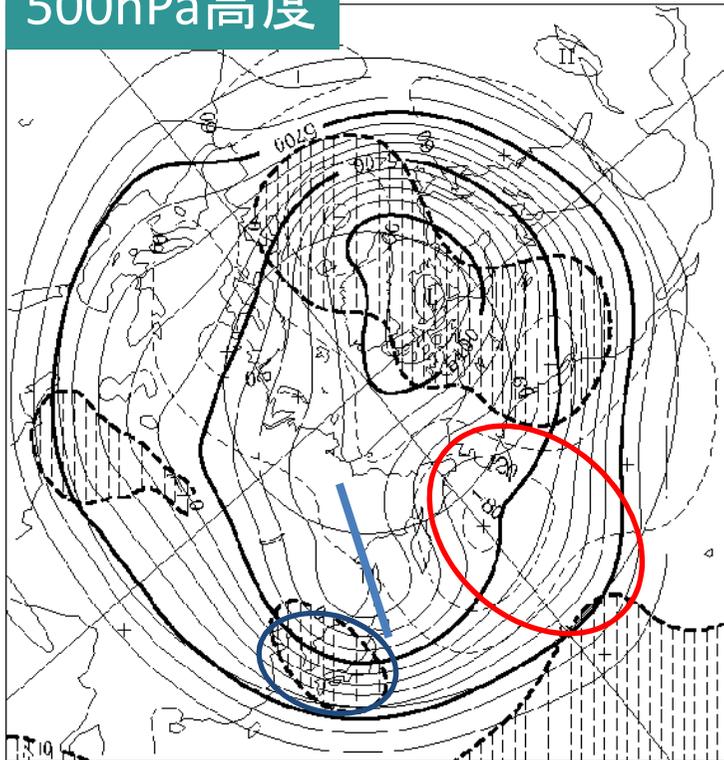
チベット付近から東シナ海付近にかけて高気圧性循環偏差、日本の南東に低気圧性循環偏差。これらは、熱帯対流活動に強制された亜熱帯ジェット気流沿いの波列に対応。また、千島の東付近に高気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



インドネシア付近からフィリピン東方海上にかけて低気圧性循環偏差で、熱帯対流活動に強制されたと推察。また、本州付近に低気圧性循環、千島の東付近を中心とする高気圧性循環偏差。

## 500hPa高度

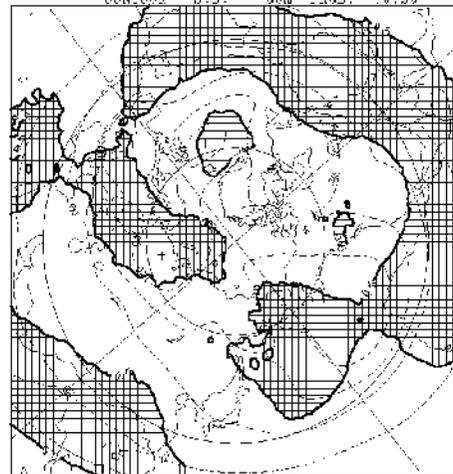
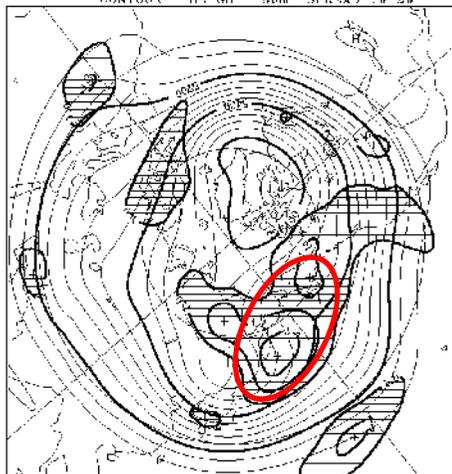


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF FLAKOM.Y AND S.D.

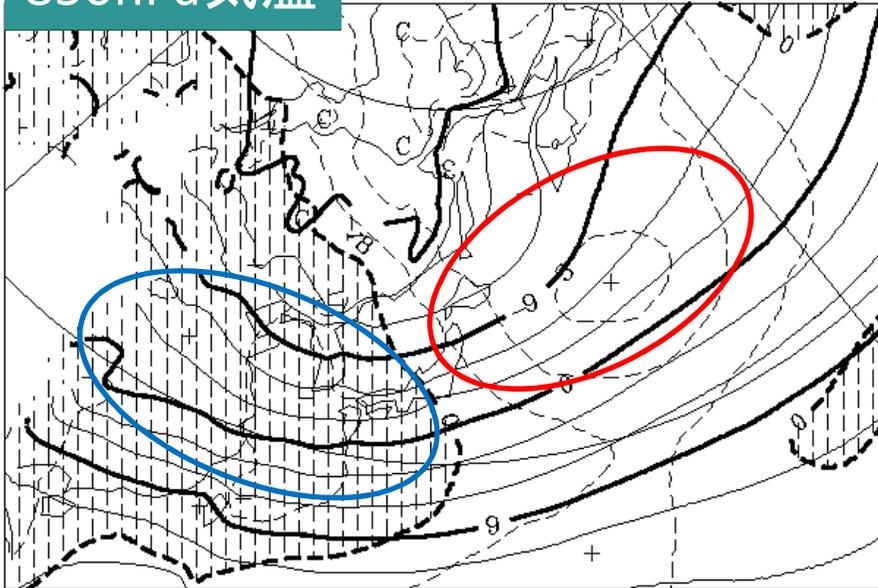
CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD : 9.20

CONTOUR S.D. : 30m 2203. : 9.25



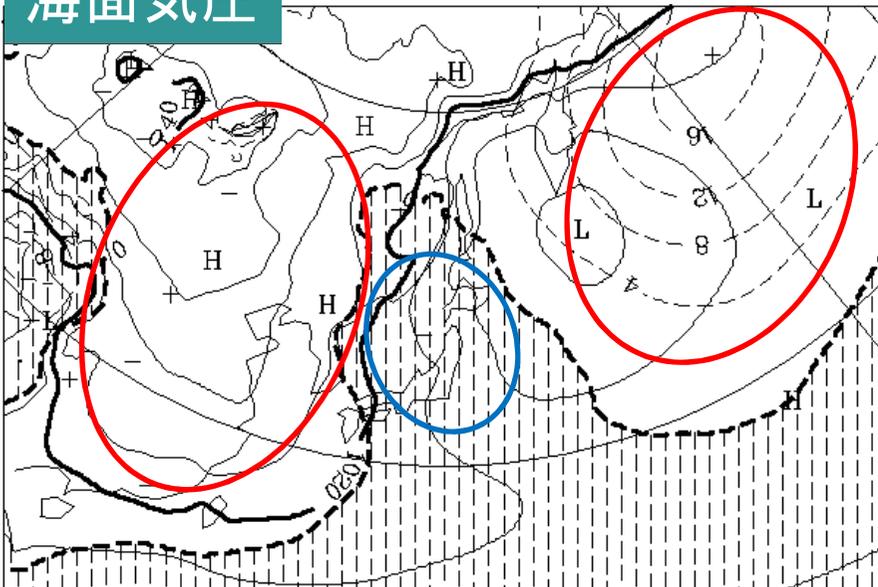
アリューシャン近海付近に強いリッジがある一方、東シベリアからサハリン付近にはトラフがある。日本付近は北海道を除き負偏差。カムチャツカの東から日本の東付近にかけてスプレッドが大きく、リッジがブロッキング高気圧に、トラフが寒冷渦になる可能性があるなど、これらのトラフとリッジの予測の不確実性が大きいことを示す。

## 850hPa気温



北日本は正偏差、東日本は偏差が小さく、西日本と沖縄・奄美は負偏差。西回りの寒気流入。

## 海面気圧



アリューシャン低気圧は弱く、北日本では冬型の気圧配置は長続きしない。日本付近には負偏差域、千島近海には低気圧があって、北日本は低気圧の影響を受けやすい。一方、シベリア高気圧は強く、東シナ海まで張り出すため、沖縄・奄美を中心に高気圧に伴う下層寒気の影響を受けやすい。

### 想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東日本日本海側では、冬型の気圧配置が続かないため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。
- ・ 西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

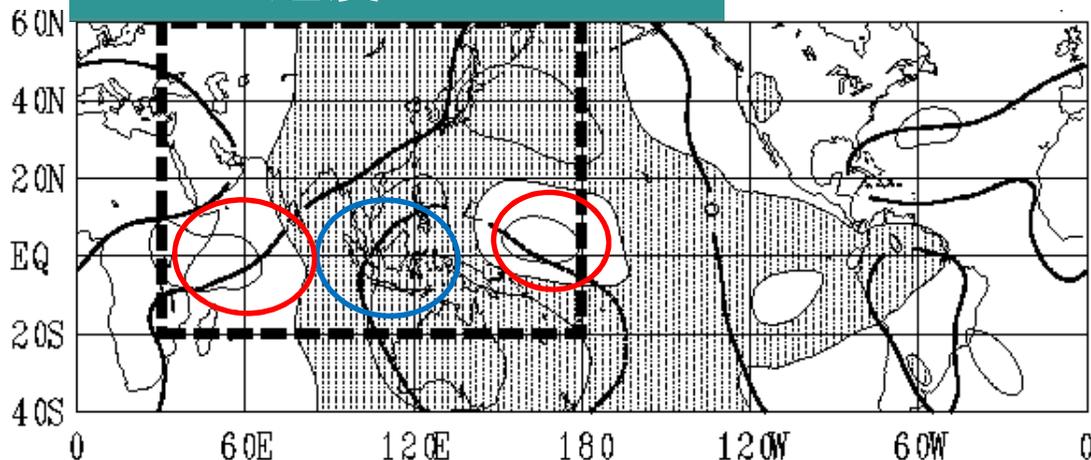
#### <気温>

・北・東日本は寒気の影響が弱いため高温で、北日本ではかなりの高温となる見込み。一方、寒気の影響を受けやすい西日本と沖縄・奄美は低温傾向。

#### <天候>

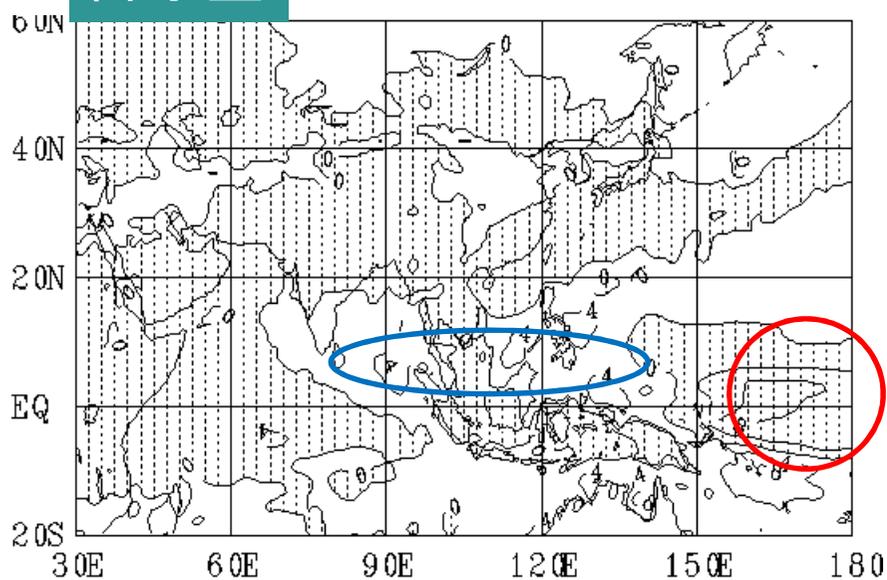
・冬型の気圧配置が続かないため、東日本日本海側で平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北日本日本海側では、冬型の気圧配置が続かないが、低気圧の影響を受けやすいため平年同様。

## 200hPa速度ポテンシャル



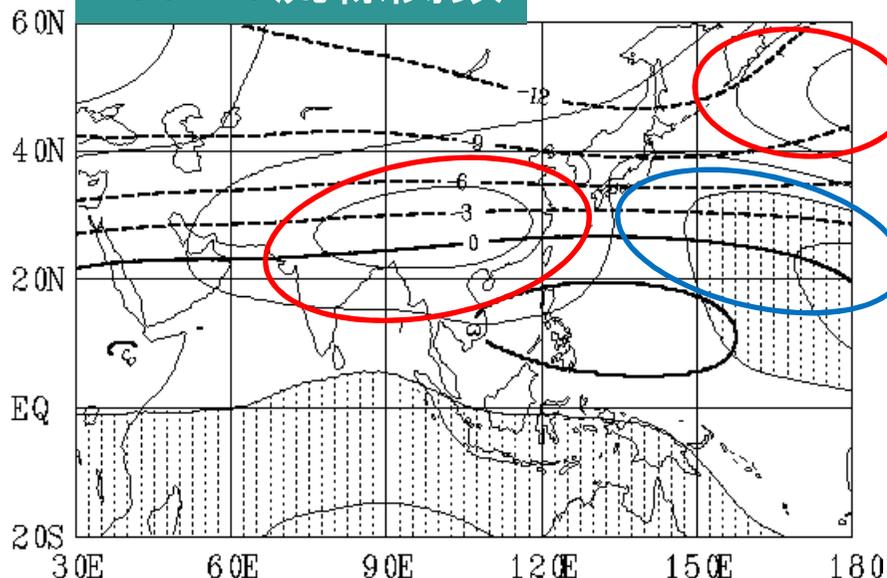
インドネシア付近で上層発散  
偏差、インド洋西部と日付変  
更線付近で上層収束偏差。

## 降水量



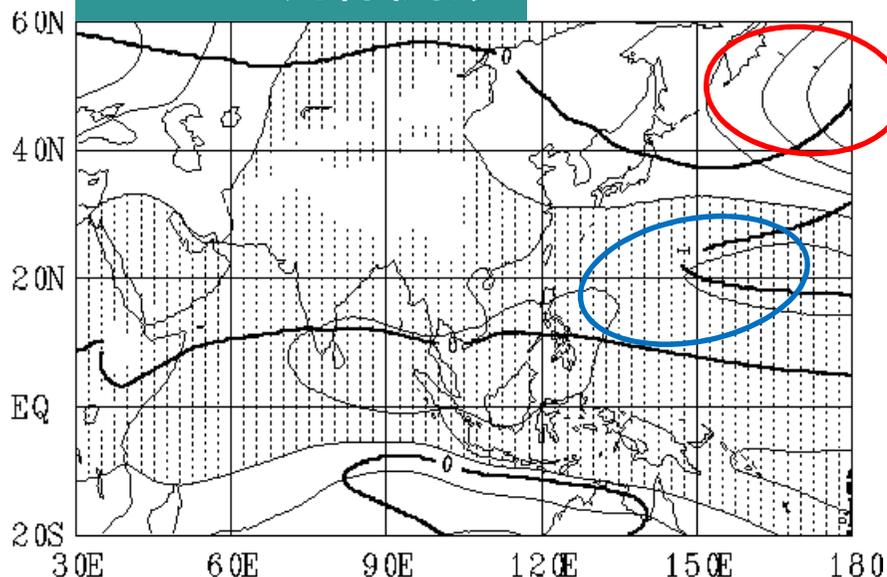
インド洋東部からフィリピン付  
近にかけて多雨偏差、日付変  
更線付近で少雨偏差。

## 200hPa流線関数



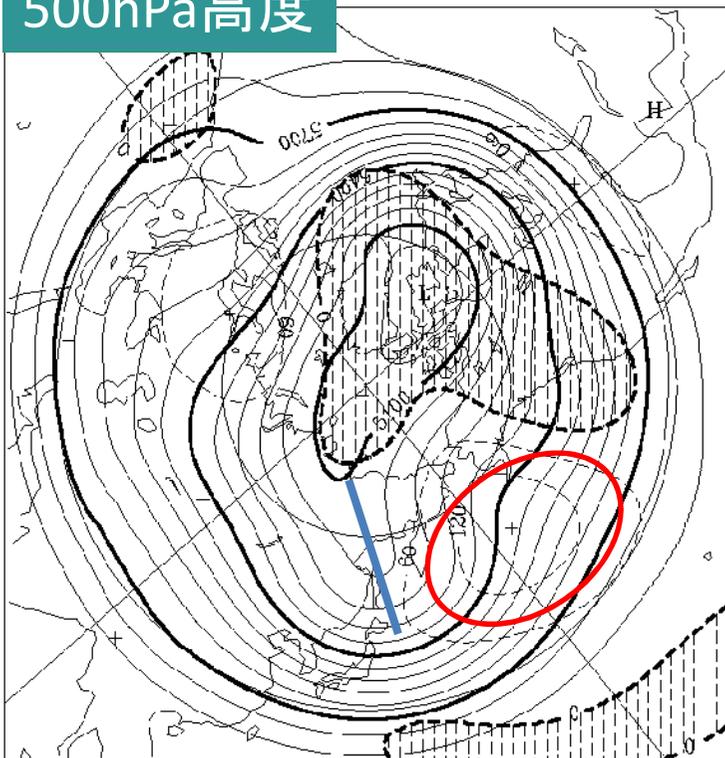
インドから華中付近にかけて高気圧性循環偏差、日本の南東に低気圧性循環偏差。アリューシャン近海に高気圧性循環偏差。熱帯対流活動の影響を示唆。

## 850hPa流線関数



日本の南に低気圧性循環偏差で、太平洋側や沖縄・奄美に湿った空気が入りにくい。また、アリューシャン近海に高気圧性循環偏差。

## 500hPa高度



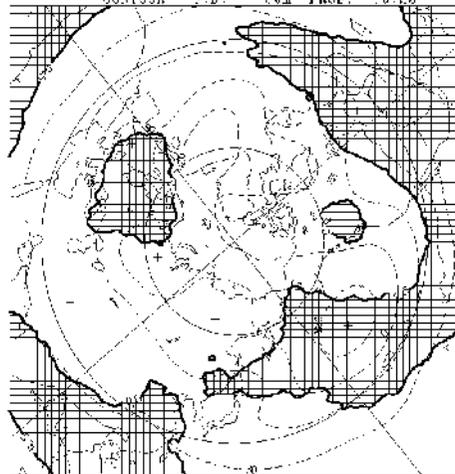
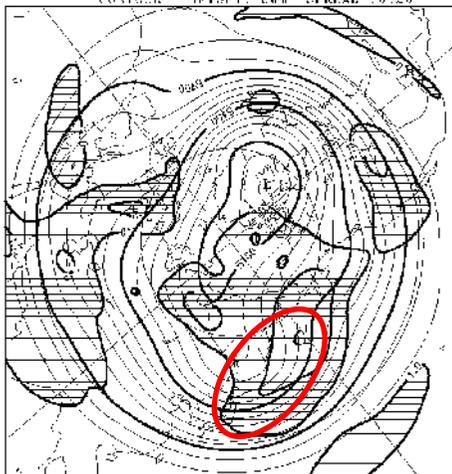
アリューシャン近海付近に強いリッジがある一方、東シベリアからサハリン付近にはトラフがある。日本付近は正偏差だが、カムチャツカの東から日本付近にかけてスプレッドが大きく、これらのトラフとリッジの予測の不確実性が大きいことを示す。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

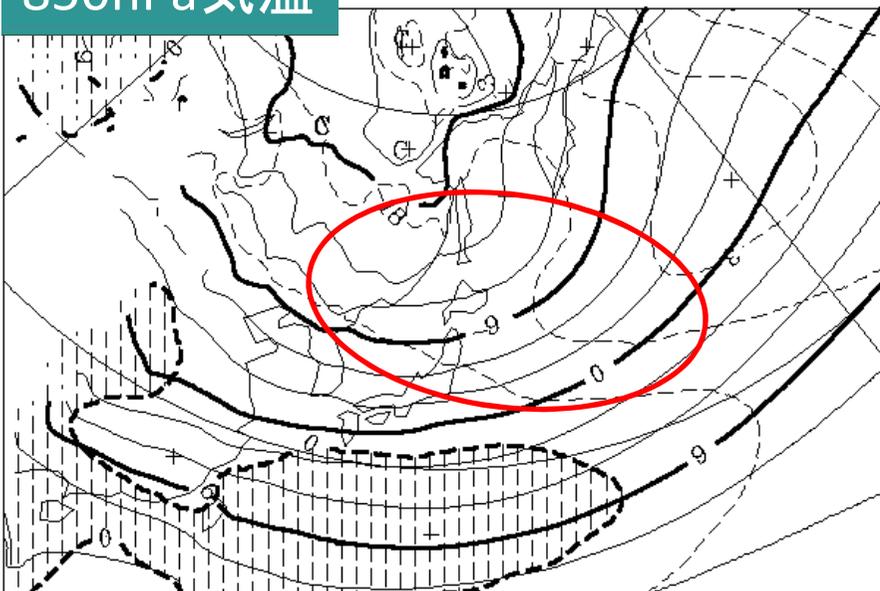
PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

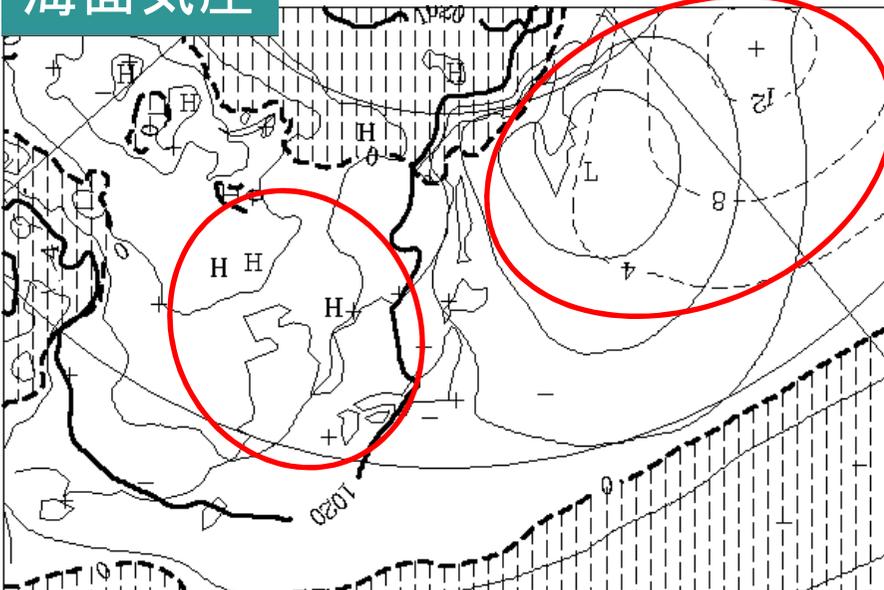


## 850hPa気温



日本付近は、北・東・西日本は正偏差で、沖縄・奄美は負偏差。

## 海面気圧



アリューシャン低気圧が弱い一方、シベリア高気圧が強く西日本まで張り出す。このため、北日本では、冬型の気圧配置が長続きしない一方、西日本太平洋側や沖縄・奄美を中心に低気圧や気圧の谷の影響を受けにくい。

## 想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・ 北・東日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 西日本太平洋側では、低気圧や気圧の谷の影響を受けにくいいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

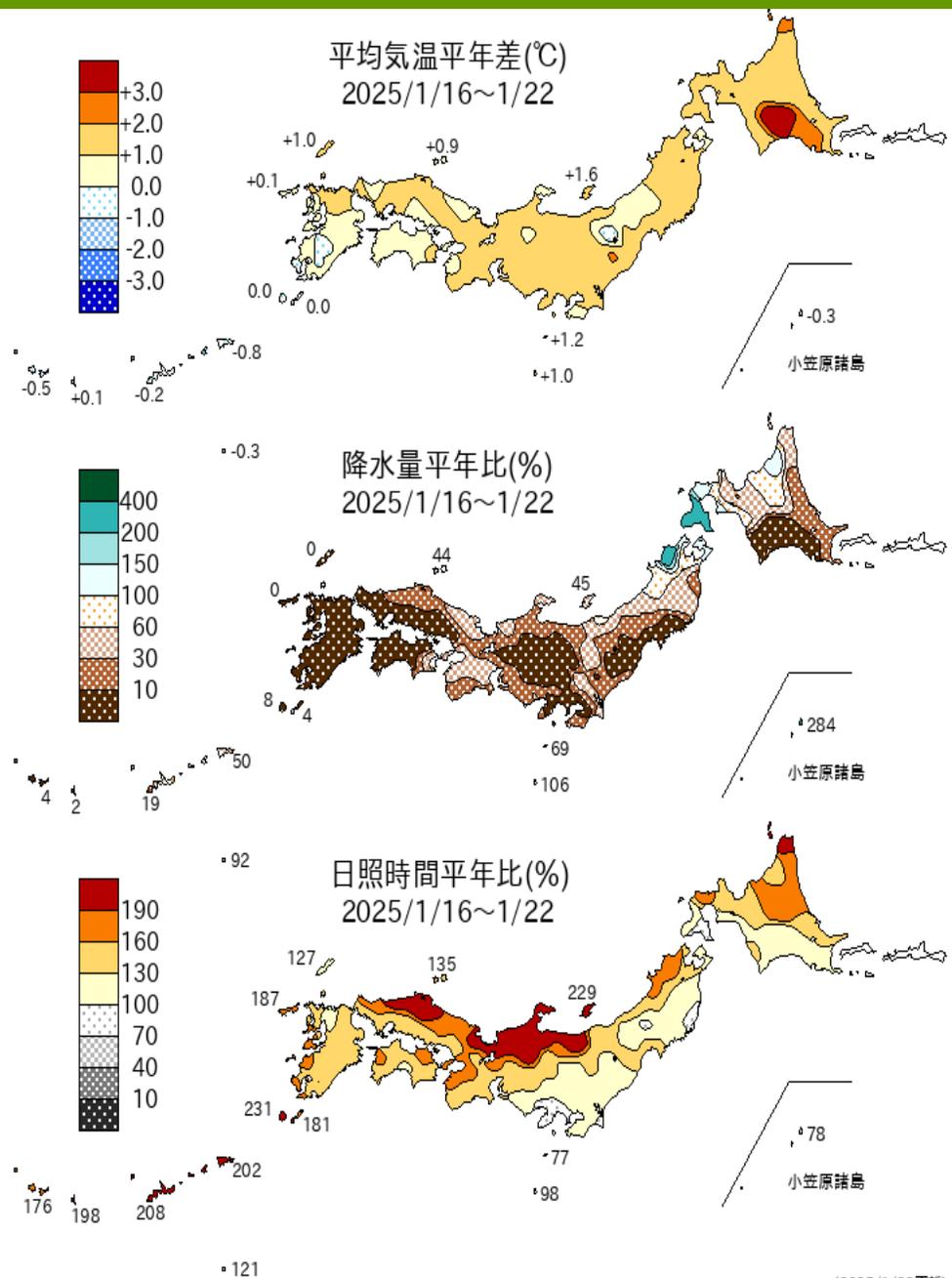
### <気温>

- ・ 寒気の影響がやや弱いため、北日本では高温、東日本では高温傾向。

### <天候>

- ・ 冬型の気圧配置は続かないが、低気圧の影響を受けるため、北・東・西日本日本海側では平年と同様の天候。
- ・ 一方、低気圧や気圧の谷の影響を受けにくいため、西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。

# 最近1週間の天候経過



最近1週間(1月16日~1月22日)は、期間のはじめは北日本では冬型の気圧配置となり、日本海側を中心に大雪となりました。その後は、全国的に高気圧に覆われやすく、晴れの日が多くなりました。このため、降水量は北日本日本海側の一部を除き平年を下回り、日照時間は全国的に平年を上回った所が多くなりました。気温は寒気の影響を受けにくかった北・東・西日本で平年を上回りましたが、高気圧に伴う下層寒気の影響を受けた沖縄・奄美では平年を下回りました。